令和7年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【上小小学校】

① 今年度の課題と学力向上策

	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	＜学習上の課題＞ 基礎学力の定着。 国語「書くこと」 算数「数と計算」 ＜指導上の課題＞ 教員側のICT活用能力の個人差がある。学習場面に合ったICT機器の活用に個人差がある。	⇒	朝学習「基礎学習の時間」を活用して、国語の書きと計算の基礎問題に取り組む。【通年】 ICT機器の有効活用を行い、算数の「数と計算」に関する資料提示をわかりやすいものへと改善する。【週に1度】 国語の授業において、文章を書く時間の確保を積極的に行い、書く力を高める授業を推進する。【週に1度】
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞ 授業中の「個で考える時間」の確保。 算数「データの活用」 ＜指導上の課題＞ 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させていく必要がある。児童主体の学習活動の機会が十分に確保されていない。	⇒	1人1台端末を有効活用し、ドリルパーク等で、一人ひとりの課題に合った学習が進められるようにする。【通年】 ICT機器の有効活用を行い、算数の「データの活用」に関わる授業をわかりやすい内容になるように工夫する。【学期に1度】

② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語の(1)言葉の特徴や使い方に関する事項においては、特に良好な結果であった。また(2)情報の扱い方に関する事項については、更なる向上を目指すことができると考える。情報と情報の関連付けや語句と語句の関係の表し方を理解し、活用することを定着させ、情報活用の視点を持ちながら日々の学習活動を行う必要があると考えられる。 算数では、良好な結果であった。個別の領域では、特に「棒グラフの読み取り」「異分母の分数の加法」で良い結果が得られた。 一方で、「台形の意味や性質」「角の大きさ」についての理解では、課題が見られた。 理科では、知識・技能における無回答率が課題となっている。
思考・判断・表現	国語の思考力、判断力、表現力等に関する事項においては、おおむね良好な結果であったが、その中の「A話すこと・聞くこと」の中で、課題がある。「目的や意図に応じて話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討できる力」を身に付けさせるために、身近な出来事から話題を決め、書くだけでなく、発表をする・発表を聞くなどをして、自分の考えをまとめ、わかりやすく伝えることができる能力を高めていく必要がある。 算数の思考・判断・表現は、良好な結果であった。しかし、分数の加法における共通する単位分数について言葉で説明する問題については、課題が見られた。今後は、算数における表現力を高める指導が必要である。 理科については、観察・実験の方法が適切であったかを検討する問題について無回答も多く、課題が見られた。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	毎週金曜日の朝自習「基礎学習の時間」に、国語の漢字・算数の計算などの学習に取り組むことができており、基礎基本的な学力の定着を図っている。 また各教科の授業においても、ICT機器の有効活用が進んできており、どの教科においても工夫した資料提示を行ったり、児童自身が資料作成などで効果的な活用をしたりすることができるようになっている。	変更なし
思考・判断・表現	B	自主学習に取り組み、自分で課題を決めて学習を進め、表現する力を定着させている。 また自分の考えや意見をノートに書き残すだけでなく、オクリンクプラスや共同編集アプリ等に入力し、学級全体で共有するなど、効果的で工夫された授業実践に取り組むことができている。	全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、算数の授業において、問題を解くだけでなく、図や言葉を用いて解き方の説明を記述する機会を増やし、算数における表現力を高める指導を充実させていく。【週に1度】

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（おおむね達成） C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	R7年度さいたま市学習状況調査・国語の学習指導要領の内容「知識及び技能」では、全体的に良い正答率であった。どの学年においても、高い数値を残すことができた。言葉の特徴や使い方に関する事項について、確実に理解できている児童が多いと考えられる。 R7年度さいたま市学習状況調査・算数の「知識・理解」においては、課題がみられる学年もあった。小学校段階で基本的な知識・理解を定着させるために、低学年から継続的な指導をしていく必要がある。
思考・判断・表現	R7年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」で、国語は、「話すこと・聞くこと」に課題が見られた。今後、学校全体で「話すこと・聞くこと」の力を高める指導を行っていく必要がある。また算数では、A数と計算とB図形で一部課題がみられた。国語では、授業中に自分の考えを表現する機会を増やすだけでなく、他者の意見を聞き、理解する場面を増やしていく必要がある。また、算数では、業前の基礎学習の時間を活用し、基礎的な計算問題を多く解き、正答率を上げていくことが必要である。

⑤ 学力向上策の実施状況

	評価（※）	
知識・技能	A	年間30回の朝自習「基礎学習の時間」を活用し、通年で国語の「書く」活動や漢字の習熟、算数の計算の問題に取り組み、基礎的な書く力・言葉の意味理解・計算する力を高めることができた。市学調の正答率についても、向上した。学校課題研究で、「自ら課題を発見し、協同的に学びを深めることができる児童の育成」に取り組み、一人一授業を公開し研究協議を行ったことで、授業の質の向上がみられた。このことが、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え, 自分から取り組んでいましたか」の質問項目について、昨年に比べ小5の肯定的な回答が高い数値となった。小5の実践を他学年に広め、学校全体で授業改善に取り組んでいく。
思考・判断・表現	B	全国学調の算数、「台形の意味や性質」「角の大きさ」についての理解で課題が見られたため、日々の授業の中で、図形についての基本的な理解を高められるように、授業において多くの問題に触れられるようにしていく。R7年度さいたま市学習状況調査の「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていますか」の質問項目については、高い数値を残すことができた。学習内容を確実に理解し、自分の力でまとめることができる力を、低学年時期から育てていきたい。

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（おおむね達成） C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と学力向上策

知識・技能	朝自習「基礎学習の時間」を活用して、通年で国語の「書く」活動と計算の基礎問題に取り組んだことで、国語と算数における知識・理解の定着を促すことができた。来年度も継続して取り組んでいく。次年度は、国語においては、授業中に自分の考えを表現する場面や他者の意見を聞き理解する場面を増やし、「話すこと・聞くこと」の力を高めることを目指す。また学習アプリ等を活用して、継続的な学習に取り組み、基礎的な言語理解と計算能力の定着を目指す。全国学力・学習状況調査の算数では、分数の加法における共通する単位分数について言葉で説明する問題で課題が見られた。算数の授業において考えを表現する力を高める指導が必要である。授業中に、解き方や答えの意味を文章で説明する場面を増やし、学習内容の理解を深めたい。
思考・判断・表現	学校課題研究で「自ら課題を発見し、協同的に学びを深めることができる児童の育成」に取り組んだことで、意欲を持って学習課題を発見し、協働的に学びを深める学習を展開できた。来年度も、職員で共通理解をし、学力の定着を目指していく。またタブレットの活用により、教科書の内容の理解を効果的に進めるだけでなく、学習の理解度を教師側が適宜把握し、個に応じた指導を進めることができた。来年度も効果的なタブレットの活用についての研修を行い、実践していく。日々の教育活動の中で、引き続き「個で考える時間」や「協働的に考えを深める時間」「言語化してまとめる時間」を確保し、学力の更なる定着を目指す。